

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	コミュニティバス運行助成事業	会計	款	項	目	多額
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市計画課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成24年度の取り組み結果を、ホームページ等で概要を公表するとともに、庁内関係各課における情報共有を行い、コミュニティバスのあり方や、利用者の利便性向上の検討に活用する。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	利用者の現状把握と多様な市民ニーズを明確にし、利用者拡大へ向けた検討を行っていく必要がある。
②①に基づく取り組み結果	アンケート結果をホームページで公表し、結果は今後のコミュニティバスのあり方や、利用者の利便性向上の検討を行うための判断材料の一つとした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	高齢者を中心とした公共施設等の移動手段の確保	意図(対象をどうするのか)	市内各所に点在する公共施設の利用促進と、子供や高齢者等を中心とした交通手段の確保としている
②事務事業の概要	市内に点在する公共施設等の利用について、子供や高齢者等の交通手段の無い方々の足として、地域活動や生涯学習活動などへの参加促進を図ることを目的として運行するコミュニティバスの運行経費を助成する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化の進展により、公共施設の利用と買い物の足としての商用利用などニーズの多様化により需要は伸びるものと予想される。また運行車両が13年を経過し、老朽化による車両の買い替え時期を迎えている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	コミュニティバスの運行を行っている「船橋新京成バス」「ちばレインボーバス」「鎌ヶ谷観光バス」に対して運行補助を行った。また、平成25年度の総利用者数は78,036人であった。					
②成果を表す指標	指標名称	平成23年	平成24年	平成25年	単位	算定根拠
	i コミュニティバス利用者数	73,129	76,014	78,036	人	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算	
事業費(千円)	19,906	19,976	金額(千円)	内容	20,230	
	国支出金(千円)		19,850	バス運行補助金		
	県支出金(千円)					
	市債その他(千円)					
	一般財源(千円)	19,906	19,976		20,230	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	利用者の現状把握と多様な市民ニーズを明確にし、利用者拡大と公共交通としてのコミュニティバスのあり方が課題					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	現在、コスト的には低いと考えるが、高齢化社会の対応として、地域活動や生涯学習などの参加からコミュニティバスの運行は必要不可欠である					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	補助金支出等 20,000千円	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	20,000	20,000	予算額	20,000	決算額	
②計画に対する事業実績	補助金支出等 19,976千円	20,000	20,000	当初	20,000	19,976	H24からの繰越	0
				H24⇒25繰越	0		現年分	19,976
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
				平成26年度への繰越額(単位:千円)				

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	北総鉄道運賃助成事業	会計	款	項	目	多額
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市計画課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	引き続き、沿線の地域活性化の活動と、補助金に対する検証等を県及び関係6市と確認していく。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	助成期間が、合意書により平成26年度までとなっている。今後、これまで行った助成について関係団体と検証していく。
②①に基づく取り組み結果	補助に対する効果を求めていくとともに、関係団体で北総線沿線の活性化が図られるよう地域活動等のPR等を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	北総鉄道(京成高砂～印旛日本医大間)の運賃	意図(対象をどうするのか)	普通運賃5%弱、通学定期運賃25%、通勤定期運賃1%強の値下げ
②事務事業の概要	北総鉄道の運賃を値下げすることを目的として、値下げによる減収分を鉄道事業者、千葉県及び近隣6市で平成22年度から5年間補てんする。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	助成期間が合意書により平成26年度迄となっており、平成27年度からの運賃補助は、行わないこととなった。これに伴い通学定期を除き、これまで行われた値下げが実施されないこととなった。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	千葉県及び近隣6市において、年総額300,000千円を補てんすることにより平均4.6%値下げしている。					
②成果を表す指標	指標名称		平成23年	平成24年	平成25年	算定根拠
	i	補助金支払割合	36	57	78	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算	
事業費(千円)	9,000	9,000	金額(千円)	内容	9,000	
	国支出金(千円)		9,000	運賃助成事業補助金		
	県支出金(千円)					
	市債その他(千円)					
	一般財源(千円)	9,000	9,000		9,000	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	平成27年度からの補助は、県・関係6市の中で行わないこととなった。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	県・関係6市で締結した合意書は平成22年度から平成26年度までの5年間としている。なお、補助の目的は運賃値下げに相当する額を補助することであり、補助に対する効果を検証しなければならない。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	補助金支出	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	運賃値下のため、補助金を支出した(9,000千円)。	9,000	9,000	当初	9,000	9,000	H24からの繰越	0
				H24⇒25繰越	0		現年分	9,000
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
				平成26年度への繰越額(単位:千円)		0		

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	鎗田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業の進捗を図るため、事業主体である千葉県及び関係機関と調整するとともに、必要な財源の確保を図る。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	事業の進捗を図るため、事業主体である千葉県及び関係機関と調整するとともに、必要な財源の確保を図る。
②①に基づく取組み結果	事業主体である千葉県及び関係機関と調整を行い、必要な財源の確保を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図(対象をどうするのか)	関係機関調整し、高架を実現させる(地元負担金を支払う)。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線の踏切遮断による交通渋滞、踏切事故や都市の安全性、快適性に遅れが生じていることにより、踏切を早く除却するように求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	新鎌ヶ谷区間は高架橋築造工事を実施し、初富区間は仮線工事を進め、北初富区間は仮線に切り替えた。					
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	算定根拠
	i	用地取得率(取得済/用地面積)	97	97	100	% 業務取得
	ii	事業進捗率(事業費ベース)	45	53	65	% 業務取得
	iii	鉄道駅乗降客数(1日当たり)	184,384	189,701	調査中	人 統計かまがや
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算
事業費(千円)	498,242	670,533	金額(千円)	内容		1,025,052
国支出金(千円)			670,533	県事業への負担金		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)	370,200	641,100				931,100
一般財源(千円)	128,042	29,433				93,952

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	踏切により、交通渋滞が多く、市街地が分断されている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民から早期完成が求められているため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	負担金支出	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	県に負担金を支出した。	615,682	957,584	当初	615,682	670,533	H24からの繰越	628,933
				H24⇒25繰越	640,583			
③達成状況	未完了			補正	-298,681		現年分	41,600
④未完了・非着手の理由	国の補正予算に伴い年度内の完了が見込まれない。			流用・充当				
				平成26年度への繰越額(単位:千円)				263,334